

(平成 2 9 年 7 月分)

種 類	市況の概況
(水産物部の動向) 水 産 物 全 般	7 月の水産物の総入荷量は、天候不順や一部の魚種の水揚げが減少したことなどにより、前年同月と比べ、鮮魚、冷凍魚、加工水産物ともに入荷量が下回り、全体で 9 % 下回った。 総取扱金額は、前年同月と比べ、鮮魚、冷凍魚、加工水産物ともに減少しており、全体で 6 % 下回った。 8 月は、さんま棒受け網漁が小型船から順に解禁となるため、徐々に入荷が増えてくる見込みである。水産庁のさんま漁の予報では、日本近海に來遊するさんまの量は漁期の前半（8 月～1 0 月上旬）は前年を上回るものの、後半（1 0 月中旬～1 2 月）は下回り、全体では低調に推移すると予想されている。
(区分別の動向) 鮮 魚	7 月の鮮魚の入荷量は、前年同月と比べ 5 % 下回り、単価は前年並みであった。 品目別には、はも、ひらめは入荷量が上回り、単価は下回った。まぐろ、さけは入荷量が下回り、単価は上回った。 8 月は、入荷が増え、手ごろな価格となってくる魚を使った料理（はもの落とし、たこの酢の物、あゆの塩焼きなど）を食べ、夏の暑さを乗り切っていただきたい。
冷 凍 魚	7 月の冷凍魚の入荷量は、前年同月と比べ 1 9 % 下回り、単価は 1 8 % 上回った。 品目別には、冷えびは海外の需要が強く、単価が前年同月と比べ上回ったため、国内需要が低下し、入荷量は下回った。 8 月の冷凍魚は、引き続き海外の需要が旺盛であることから、多くの魚種で高値のまま続くことが予想される。また、アメリカのアラスカ海域の紅さけ漁は、3 年連続で豊漁となったが、アメリカ国内の需要が強く、日本の輸入量は前年と比べ下回る見通しである。

加 工 水 産 物	7月の加工水産物の入荷量は、前年同月と比べ12%下回り、一部の品目で小型サイズが増えたことや需要が低下したことなどにより、単価は前年並みであった。 品目別には、ちりめんは入荷量が上回り、単価は下回った。塩さば、丸干ししゃもは入荷量が下回り、単価は上回った。 8月は、新物の塩さんまが初入荷するが、原料となるさんまの水揚げが前年よりも少ないため、入荷が遅くなる見通しである。
------------------	---

※鮮魚には、貝類、淡水魚を含む。

品 目	市 況 の 概 要
(鮮魚主要品目)	
ま あ じ	和歌山，京都で水揚げされたものが主体となる入荷で，入荷量は前年同月と比べ１６％下回り，大型サイズが減ったため単価は前年並みであった。
ま い わ し	大阪，鳥取で水揚げされたものが主体となる入荷で，入荷量は前年同月並みで，小型サイズが多かったため単価は４％下回った。
さ ば	和歌山，鹿児島で水揚げされたものが主体となる入荷で，入荷量は前年同月と比べ２６％下回り，単価は４％上回った。
す る め い か	青森，石川で水揚げされたものが主体となる入荷で，入荷量は前年同月と比べ５％下回り，単価は１２％上回った。
太 物	入荷量は前年同月と比べ２８％下回り，単価は３０％上回った。
は も （ 近 ）	愛媛，兵庫で水揚げされたものが主体となる入荷で，入荷量は前年同月と比べ２％上回り，単価は８％下回った。
た こ	岡山，兵庫で水揚げされたものが主体となる入荷で，入荷量は前年同月と比べ１４％下回り，単価は３０％上回った。
(冷凍魚主要品目)	
冷 さ ば	国内外ともに大型サイズが少なく，入荷量は前年同月と比べ４％下回り，単価は３％上回った。
冷 す る め い か	新物のするめいかの水揚げが少なく，入荷量は前年同月と比べ４７％下回り，単価は４５％上回った。

(加工水産物主要品目)	
塩 さ け	入荷量は前年同月と比べ８％上回り，単価は１１％上回った。 魚種別では，塩紅さけの入荷量は前年同月と比べ１７％上回り，単価は前年同月並みだったが，塩銀さけの入荷量は３％下回り，単価が２１％上回った。
開 干 あ じ	入荷量は前年同月と比べ２５％下回り，単価は２１％上回った。